

編 集 後 記

平成2年度から岡山大学環境管理センター・洗浄排水部門長を仰せつかり、それに伴って、センターの広報出版のお世話をさせて戴くことになりました。なにぶん不慣れなことゆえ、皆様の叱咤激励を受けてこの大役を果たせればと考えています。宜しくお願い致します。

さて、今年は、酷暑、多くの台風襲来あるいは暖冬気味と、実感として、地球環境を考えさせられ、さらには中東危機から、日本のエネルギー……そして環境問題を考えざるを得ない年となってしまうました。一方では、“日本の消費文明”も漸く批判され始め、新聞あるいはTVなどでも、消費の終末の“ごみ”問題、資源としてのごみ、自動車の燃費向上やディーゼル車の排ガス規制などが提起され、議論されるようになりました。このなかでも、ごみ問題は、私たち実験科学者にとっても、実験のごみ“有機廃液と無機廃液”として身近な問題のようです。岡山大学でも、予想を越えるスピードで、これらの廃液が増加してきています。これは、岡山大学の活性化と発展によるものでしょうが、消費文明の影響を全く受けていないともいえないと思えます。

岡山大学環境管理センター報は、この12号から、衣替えをしました。誌名がセンターの省令化に先立って、「環境制御」岡山大学環境管理センター報となり、しかも、本号からは、国会図書館から学術誌（広報を含む）としても扱われることになりました。そこで、投稿規定を定め、本号に添付致しました。今後、環境科学とその関連分野における皆様方のご投稿をお待ちしております。また大きな問題である『地球環境を考える』をそのⅡとして昨年に引き続き特集としてとりあげ、解説と論文を収録致しました。これらのことについて皆様方のご意見を賜りたいと存じますので、宜しくお願い致します。

（齋 藤 寛）